



**SCYLLA**  
BY JEFFTRON

# V2ギアボックス用 取扱説明書

# 目次

Scylla - V2の特徴 .....	4
安全上の注意 .....	5
パッケージ内容 .....	6
外部出力 .....	7
Scylla V2を組み込む準備 .....	8
マグネットアダプターの組み込み .....	9
ギアボックスの加工 .....	12
KRYTAK V2またはG&G G2ギアボックスに組み込む .....	13
セレクタープレートステッカーの装着 .....	15
Scylla - V2のギアボックスへの組み込み手順 .....	16
センサーの設定とテスト .....	20
ファクトリー&パスワードリセット .....	21
セレクターセンサー校正 .....	22
サイクル校正 .....	24
トリガー感度校正 .....	26
最初の動作チェック .....	27
アプリケーション.....	28

発射モード .....	28
バースト .....	28
連射速度制御 .....	29
アクティブブレーキ .....	29
プリコッキング .....	30
バッテリー電圧低下検知 .....	30
ファクトリーリセット.....	31
センサーチェック .....	32
機器の校正 .....	32
エラーログ .....	32
ステータス.....	33
設定 .....	35
スタートアップ時のエラーコード .....	38
発射後のエラーコード .....	39
トラブルシューティング .....	40

## Scylla - V2の特徴

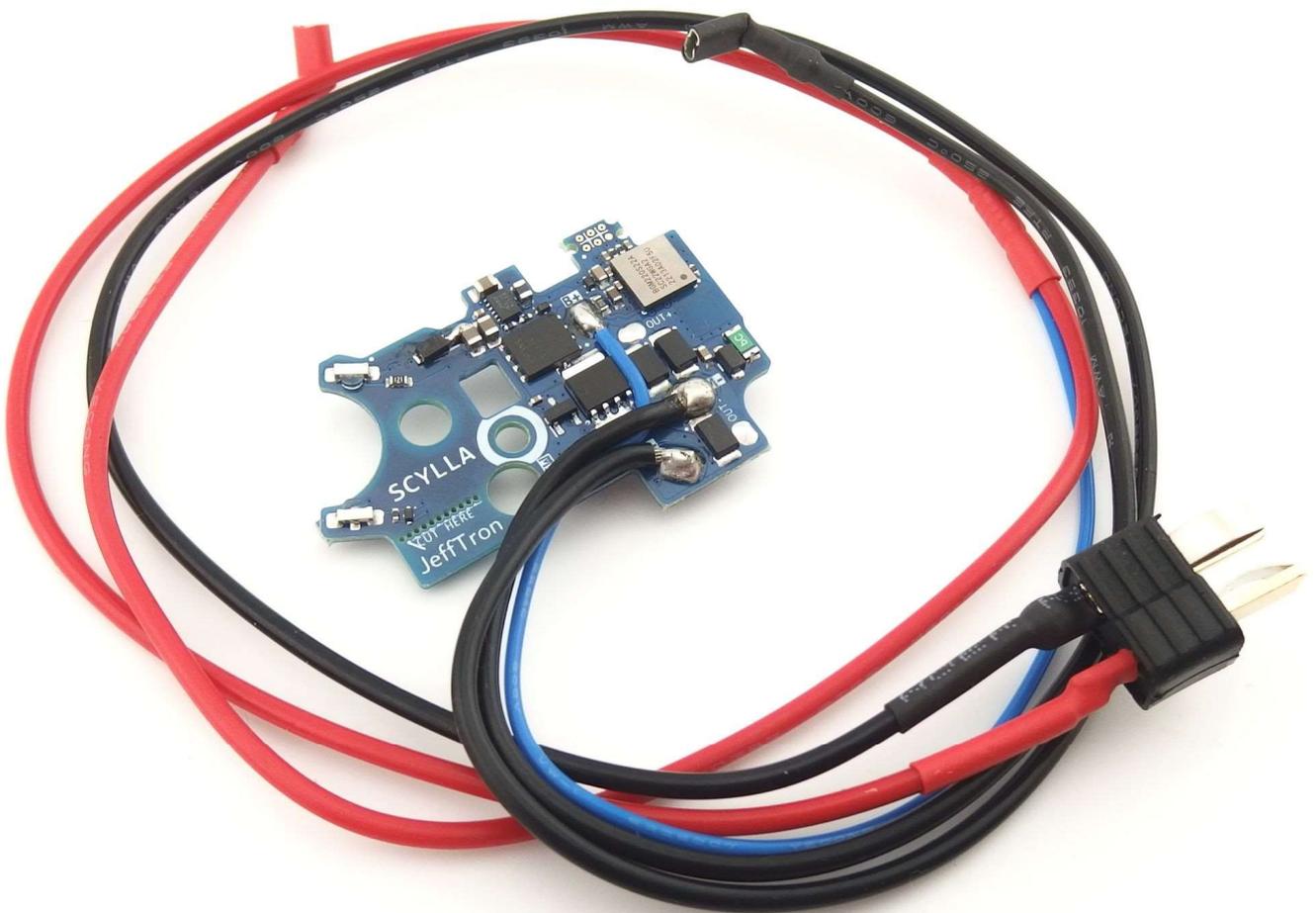
- Scylla - V2はセンサーとプログラムによって制御されている電子トリガーで、スマートフォンとワイヤレス接続が可能です。
- 機器の設定はスマートフォンのアプリケーション(AndroidとiOS)を介して行えます。
- 機器はギアボックス内に収まり、トリガーは銃本来の物が使用できます。
- 東京マルイV2準拠のギアボックスに使用できます。
- 
- 後方または前方配線に配線済みです。
- 
- 様々な発射モード、連射速度制御、アクティブブレーキ、プリコッキングなどが使用可能です。
- 
- バッテリー電圧は13V(最大でLi-Po 3S 11.1V)まで対応。

## 安全上の注意

- この機器を組み込むには電動ガンを熟知し、かつ高い技術が必要になります。
- 破損を防ぐため、必ず取扱説明書を熟読して下さい。
- 回路のショート、バッテリーの間違った接続は即座に機器に重大なダメージを与え、発火やバッテリーの爆発を招きます。これらは保証の対象外となります。
- 使用しないときはバッテリーを外してください。この機器は極わずかに電力を消費するため、バッテリーの過放電の原因となります。
- 使用者自身、他人、動物に銃を向けた状態でバッテリーを接続しないでください。
- Scyllaを改造したり、ユーザー自身で修理したり、液体に浸したり、極端な温度変化にさらさないでください。

## パッケージ内容

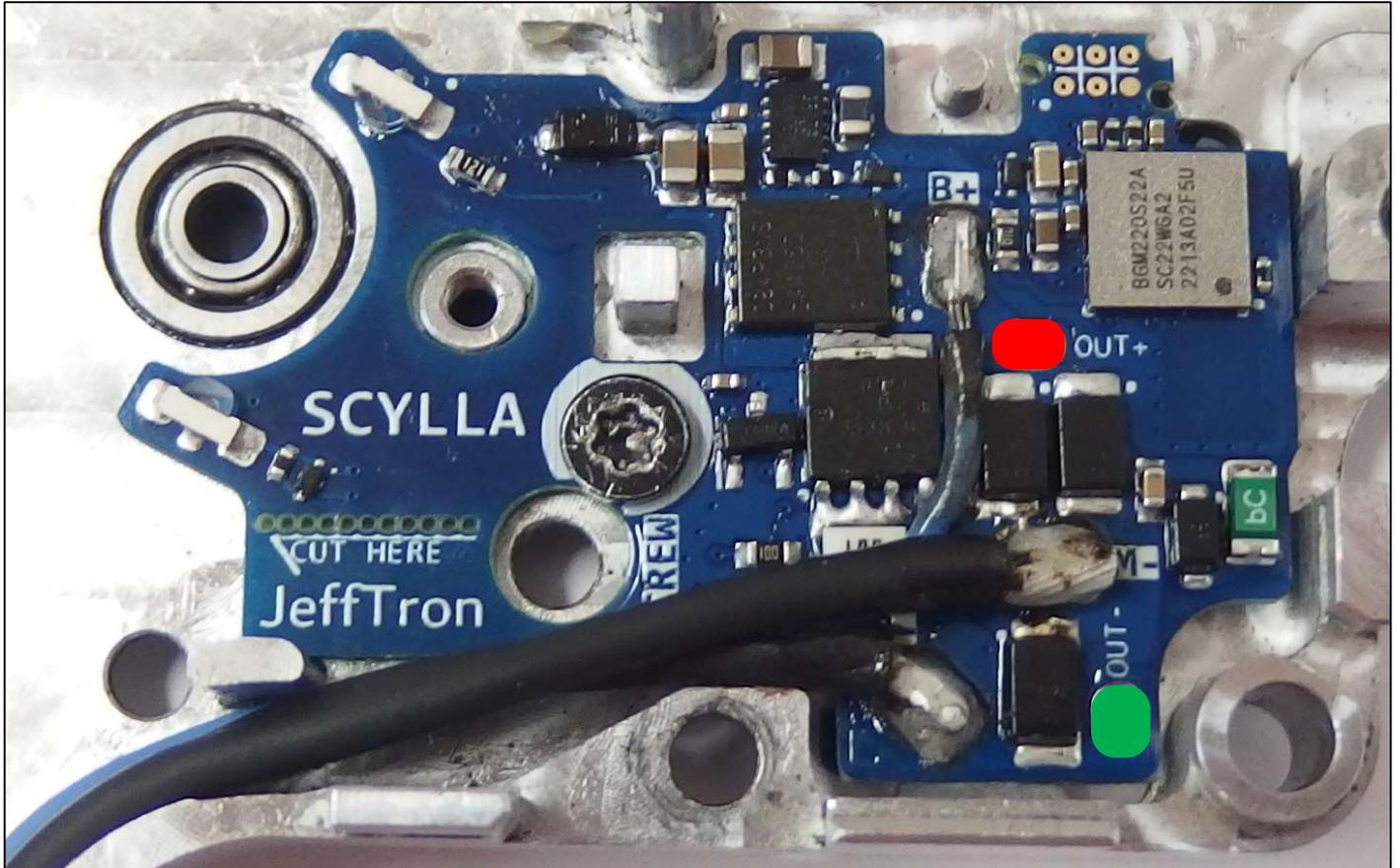
- Scylla - V2本体
- ギアボックス取り付け用のねじ 一式
- マグネットトリガーアダプター
- ワイヤーホルダー 2個
- Scyllaドッグタグ
- セクタープレートステッカー+Scyllaステッカー+取扱説明書のQRコード



## 外部出力

Scyllaの基板には2か所の外部出力ポートが備わっています。Maxx hop-up LED illuminationや電動給弾マガジンの電源として使用できます。

- 赤の四角いタブがプラス側です。
- 緑の四角いタブがマイナス側です。
- モーターが回っている時だけ、これらのタブにバッテリー電圧と同じ電圧が出力されます。
- これらの外部出力はアプリケーションでプログラムできません。
- これらに接続する配線は他のタブや部品に絶対接触させないでください。ショートの原因となります。



## Scylla V2を組み込む準備

ノーマルの銃を分解するのと同じ要領でギアボックスを取り外します。

内部パーツをギアボックスから取り外し、オイルやグリスを除去します。

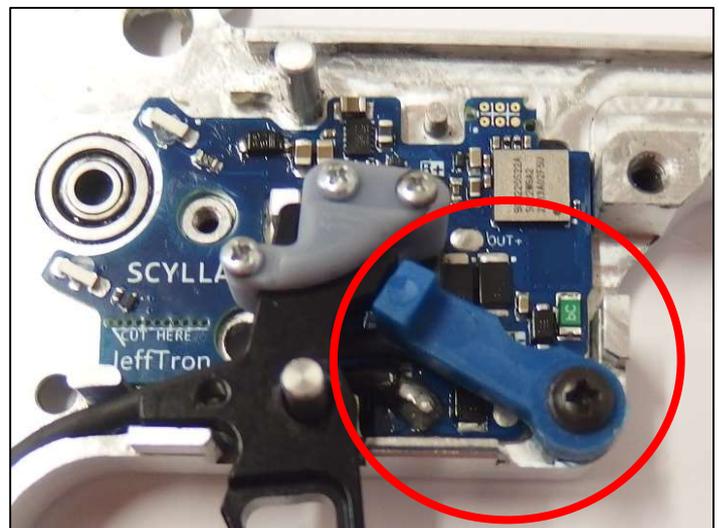
Scyllaへのダメージを防ぐため、ギアボックスのエッジを確認し、尖っている場合は面取りして滑らかにしておきます。

カットオフレバー式とトリガースイッチ類を取り外します。Scyllaでは使用しません。

トリガーセーフティレバーの取り付けは任意です。

トリガーセーフティレバーを取り付けるとセーフティをかけた時にトリガーを物理的にロックできるようになります。

もし取り付けなくても、Scyllaはセーフティをかけると電子的に発射不能状態になります。



全ての部品を取り外したら、Scyllaを取り付ける準備が完了となります。



### マグネットアダプターの組み込み

Scyllaは磁力を検知するホール素子をトリガーセンサーに使っています。このため、銃に付属または市販のトリガーにマグネットを取り付ける必要があります。

ScyllaにLeviathan用のトリガーを使用することはできません。

まず、マグネットアダプターの左側を写真のようにトリガーに取り付けます。赤丸のねじはまだ締めないでください。



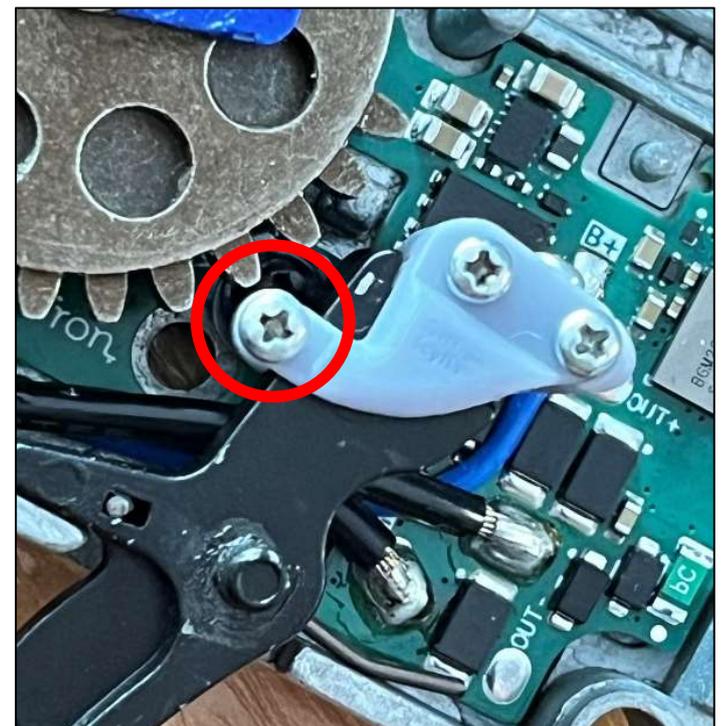
右側のマグネットアダプターを取り付け、3か所のねじをゆっくり締め込みます。



頂点にあるねじは、様々な形状のトリガーに対応するためのガタ取り用の調整ねじです。ガタが無くなるまでゆっくり締め込みます。



マグネットアダプターがセクターギアに干渉しないか確認します。もし干渉する場合はマグネットアダプターを削って調整してください。



マグネットアダプターを取り付けたトリガーがギアボックス内でスムーズに動くかテストします。

もし動かない場合は：

1) 0.2~0.5mmのシムをトリガーの右側にいれてトリガーを基板側に寄せます。シムはギア用の物が使用できます。



2) 1)の方法でも解消しない場合、ギアボックス右側にある写真赤丸部分の突起を削ってください。



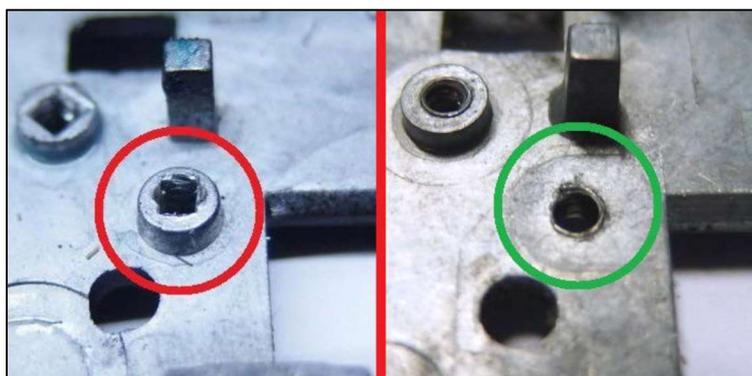
## ギアボックスの加工

- ギアボックスの加工はScyllaをダメージなく組み込むために必要となります。
- いくつかの加工はギアボックスのメーカーによっては必要ない場合があります。
- ScyllaはKWAのギアボックスには使用できません。セクターギアの位置がV2とは異なります。
- ARES、ARCTURUS、KWAなど専用ギアボックスには対応していません。

右写真の3か所のピンを削り落とします。配線を通すために必須の加工となります。



もしスイッチを固定するねじ穴が一段高くなっている場合、平らになるように削ってください。

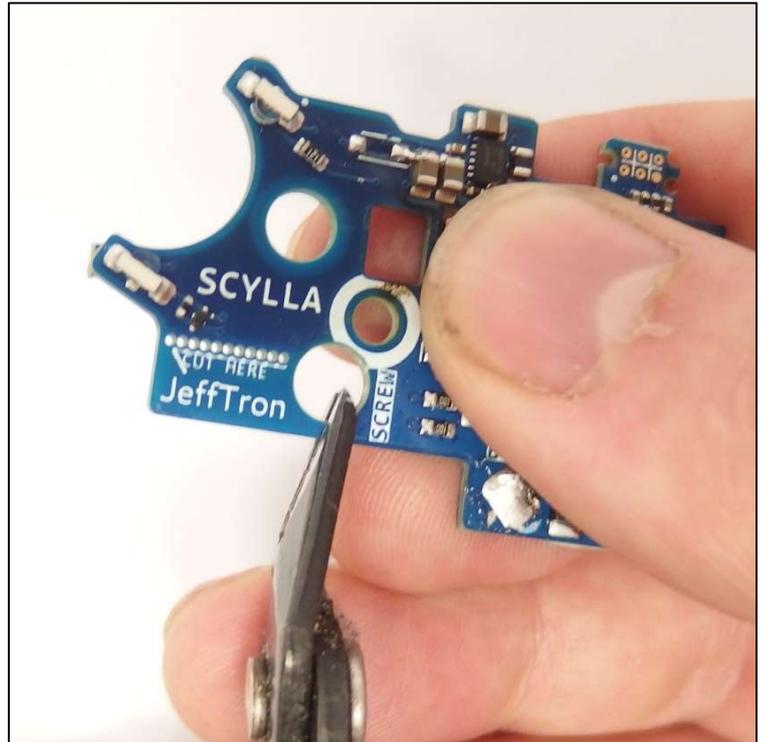


## KRYTAK V2またはG&G G2ギアボックスに組み込む

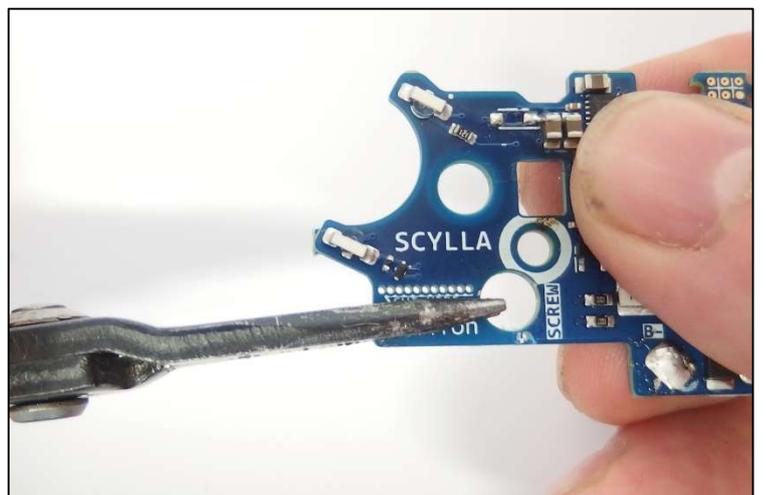
- KRYTAKまたはG&G G2ギアボックスに組み込む際、ギアボックスの加工は必要ありません。
- 下の写真のように、Scyllaの基板の一部をカットするだけで組み込めます。

ニッパーで右の写真に示した穴の下部、薄くなっている部分をカットします。

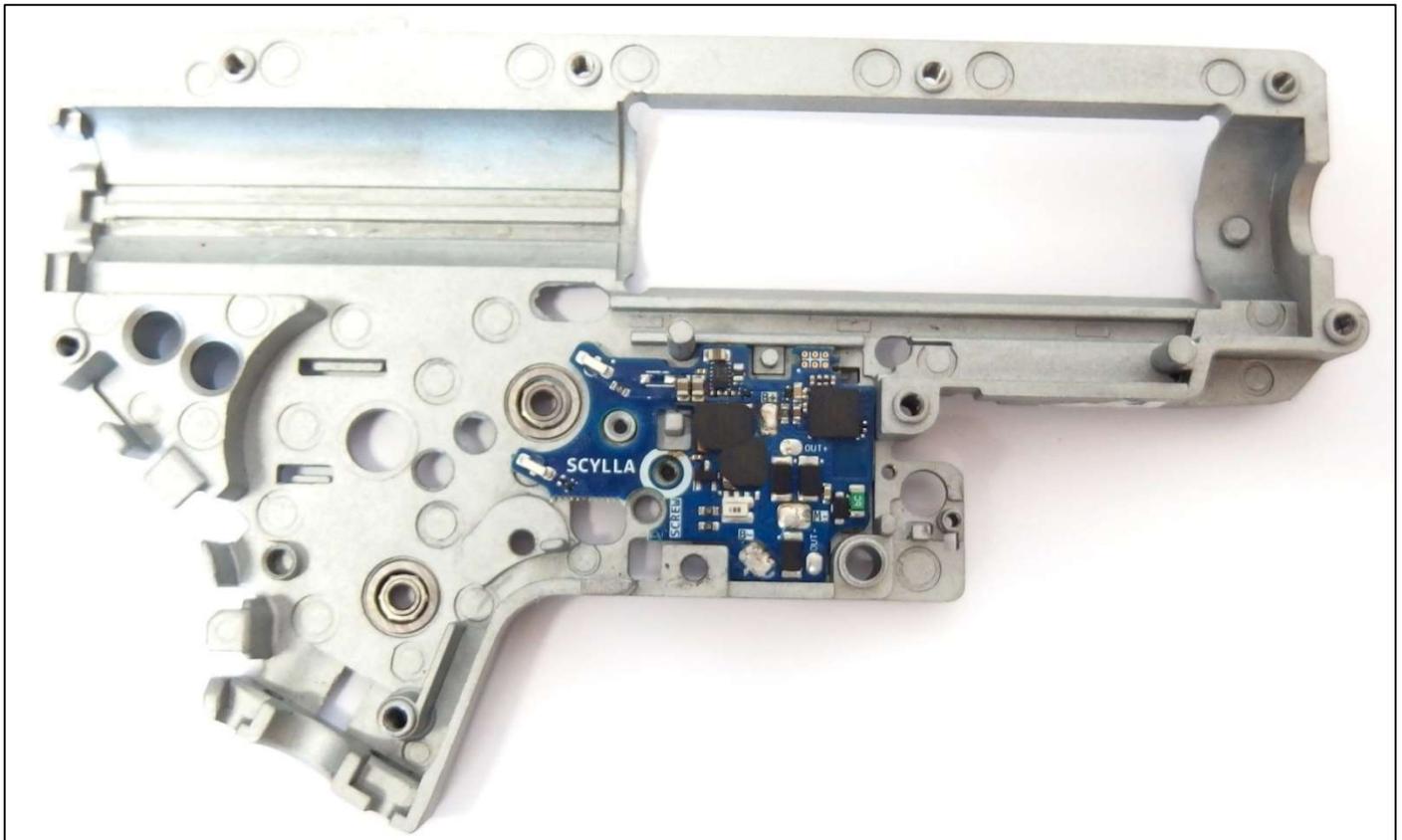
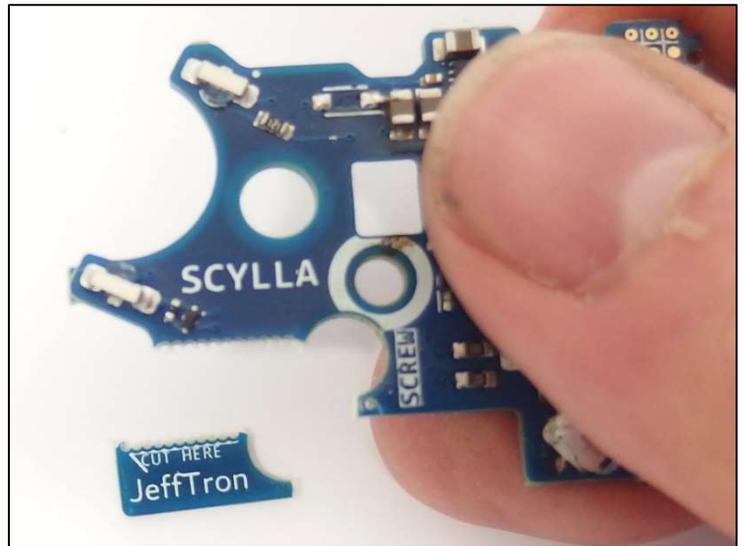
**注意：配線はカットしないでください。**



次に、CUT HEREと書かれた穴がたくさん開いている部分を折ります。



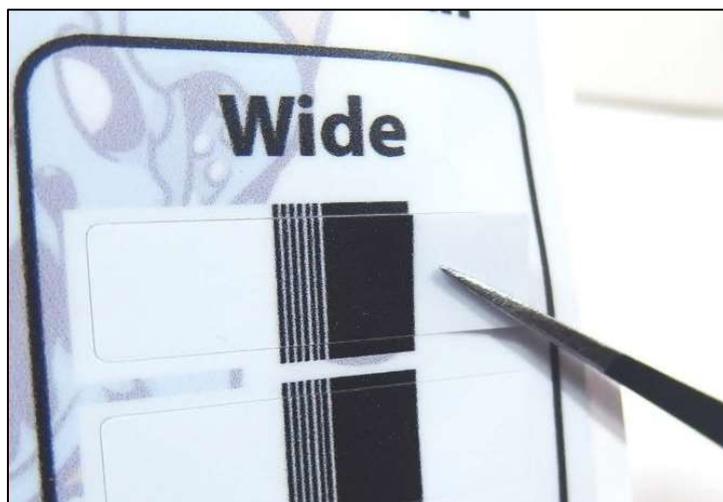
この部分を除去することで、KRYTAK V2とG&G G2ギアボックスにScyllaを組み込めるようになります。



## セレクタープレートステッカーの装着

Wideはセミの検知部分が  
広がっています。

指で剥がさず、ピンセットを  
使ってください。



セレクタープレートを完全に  
脱脂してください。

黒と縞々の境がちょうど中央  
になるようにステッカーを貼  
ります。



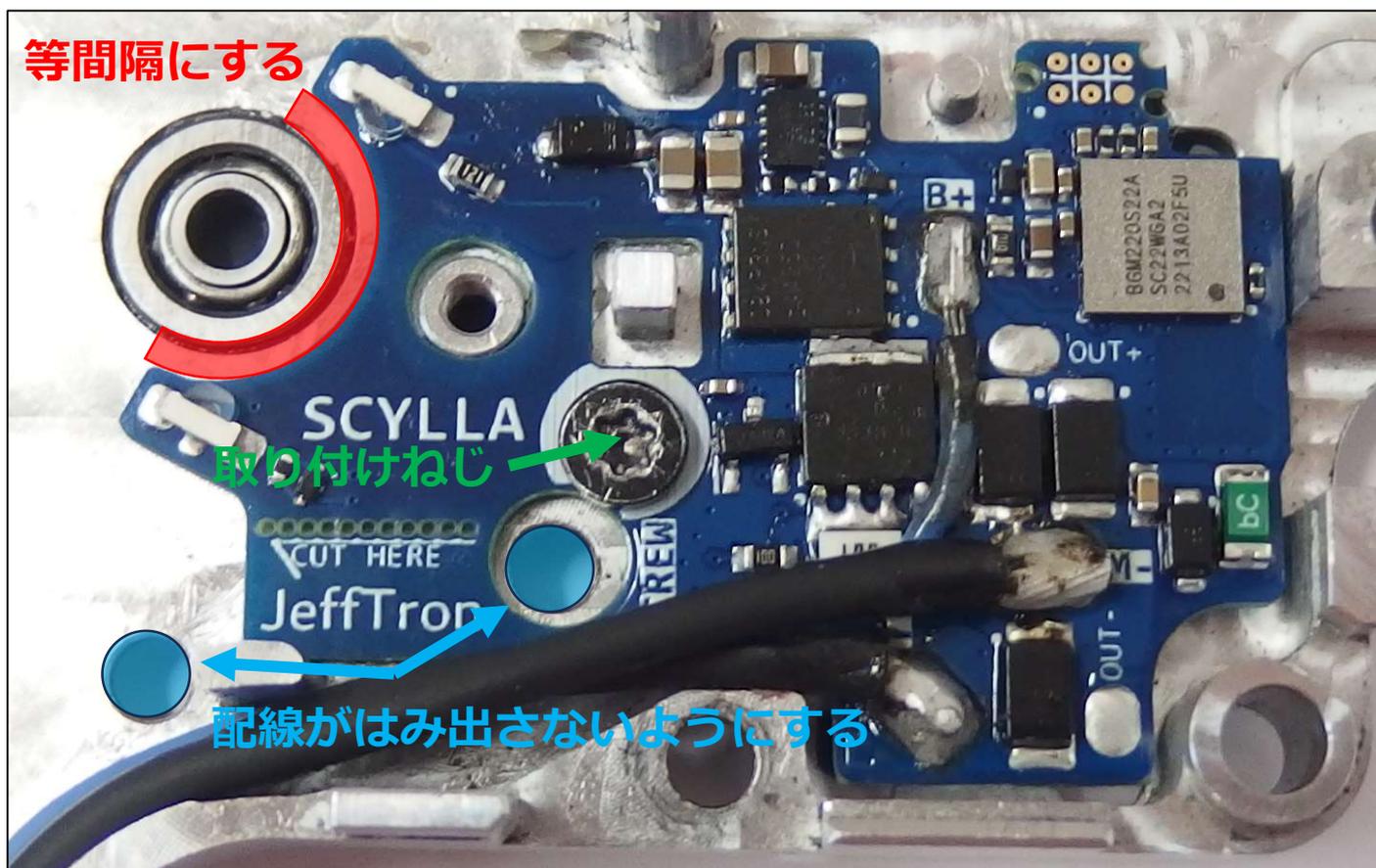
余ったステッカーを折り曲げ  
て裏側に貼ります。



セレクタープレートステッ  
カーの貼り付けが完了しまし  
た。



## Scylla - V2のギアボックスへの組み込み手順

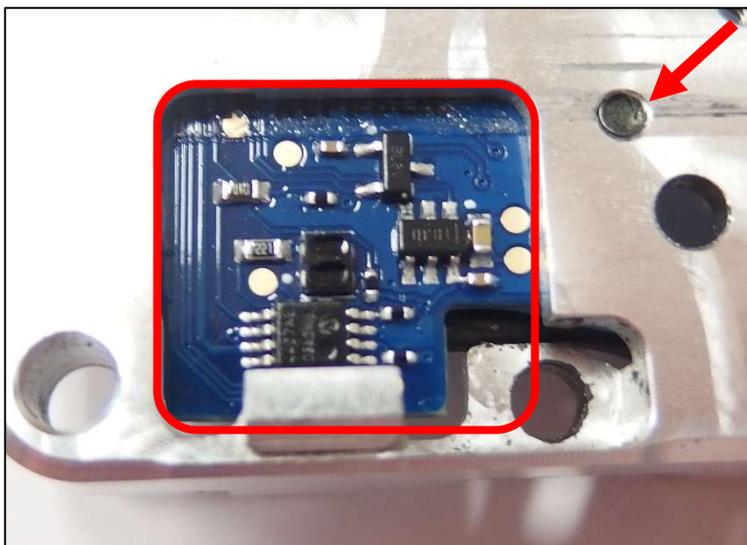


トリガースイッチの代わりにScylla - V2を装着します。

- ギアボックスにScylla - V2が平らに置かれていることと、**青の穴**に基板や配線がはみ出していないことを確認します。
- Scylla - V2の基板と軸受の隙間が同心円かつ等間隔になるように位置を調整します(**赤の部分**)。
- パッケージ付属、またはギアボックスに元からついていたねじを使ってScylla - V2を固定します(**緑の部分**)。
- カットオフレバーのねじ穴は使わないでください。位置が高すぎて基板を固定できません。

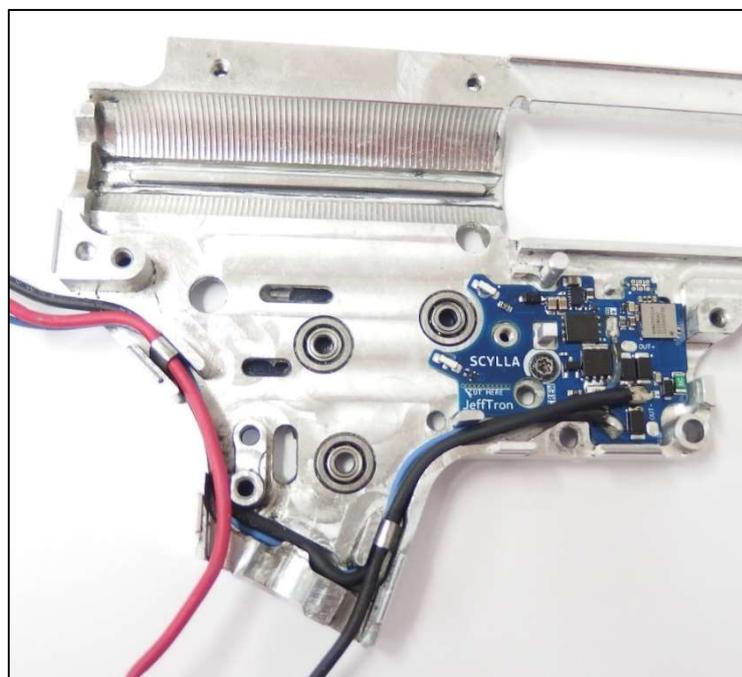
固定ねじがギアボックス裏側の面から飛び出していないことを確認してください。飛び出している場合は削って平らにします。

赤で囲んだ部分に基板上の部品が接触していないことを確認してください。



配線の取り回し：  
次の順番で配線をギアボックスに収めていきます。

- 1) 青(信号線)
- 2) 黒(バッテリーマイナス)
- 3) 黒(モーターマイナス)

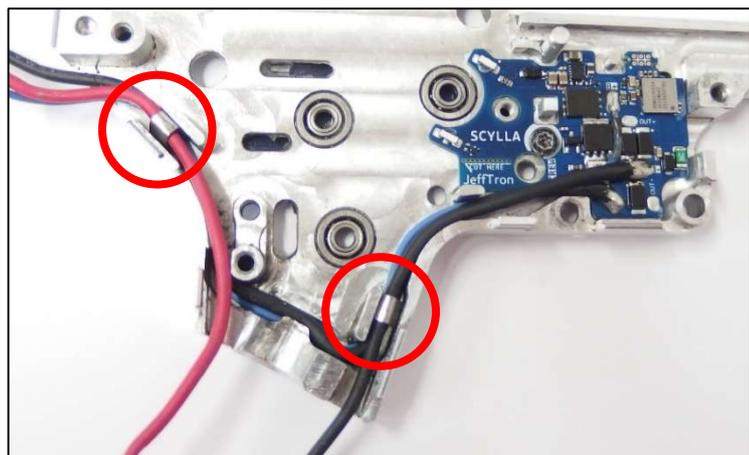


最後に赤(モータープラス)をギアボックス後方の穴から配線ルートを経由し、グリップ側に通します。

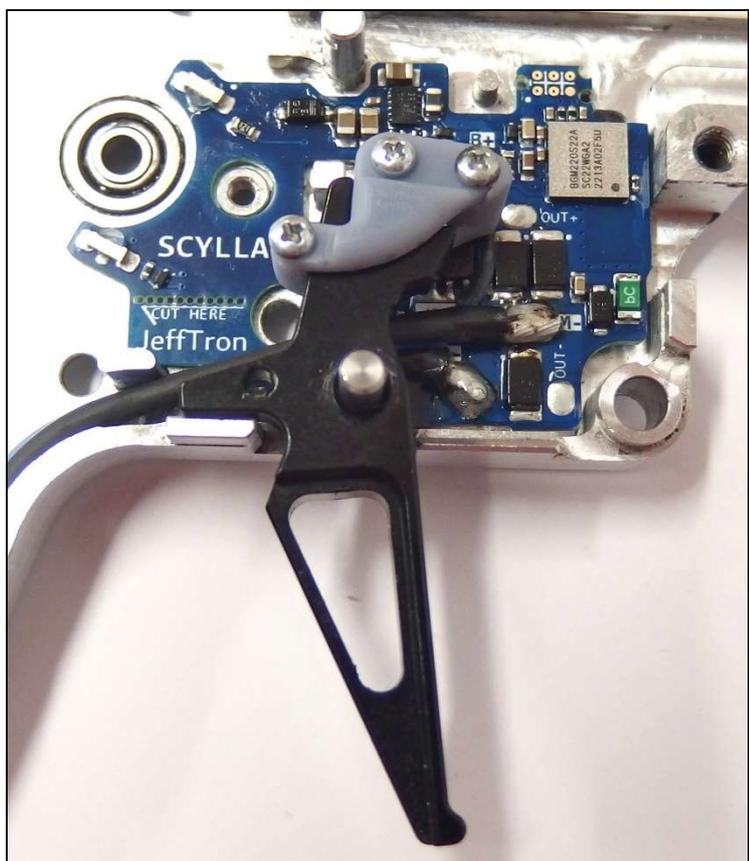
ピニオン下の配線が浮き上がらないように接着剤で固定します。RETRO ARMS製ギアボックスなど、配線ガードと迂回ルートが設けられているギアボックスの使用を強く推奨します。



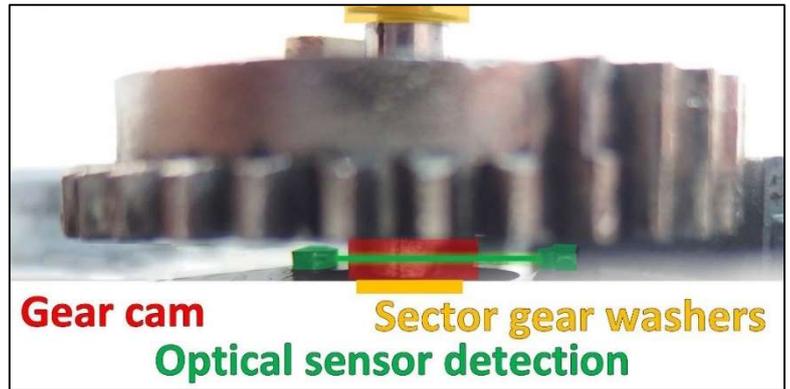
付属のワイヤーホルダーを赤丸の位置に差し込んで配線を固定します。ワイヤーホルダーは配線ルートの幅に合わせて曲げて調整してください。



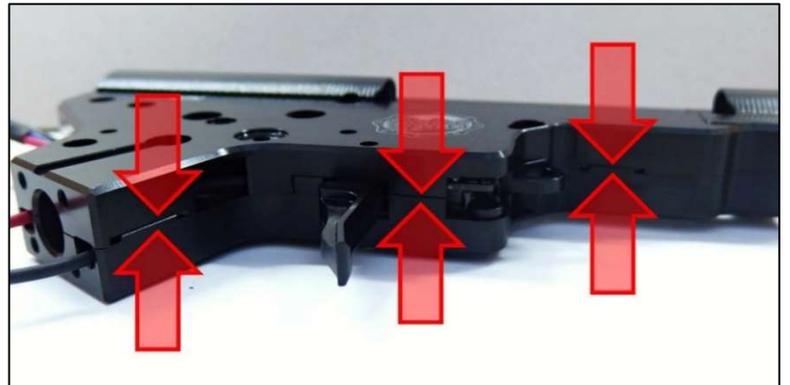
マグネットアダプターを装着したトリガーとトリガースプリング式をギアボックスに装着します。



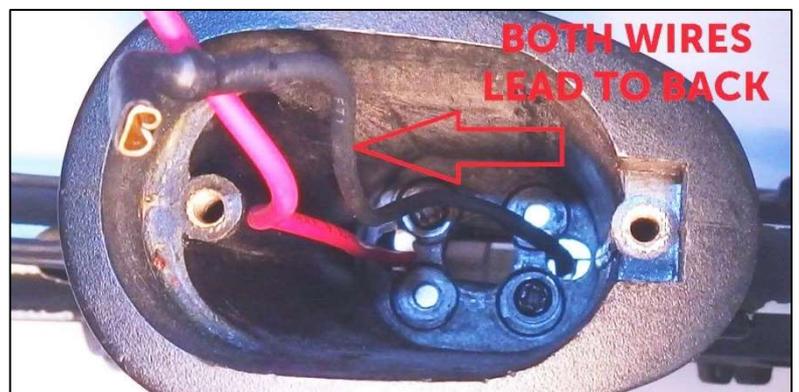
セクターギアの高さを確認  
します。光学センサーに触  
れてはいけません！



残りの部品をギアボックス  
内に入れ、組み立てます。  
ギアボックスが完全に閉じ  
ていることを確認します。



グリップ内で配線を取り回  
します。



黒の配線をグリップ下部で  
後方へ折り曲げ、赤の配線  
と一緒に後方に持っていき  
ます。



黒の配線を先にモーターに  
接続します。極性に注意し  
てください。

## センサーの設定とテスト

App store (iOS)またはGoogle play (Android)からLeviathan & Scylla by JeffTronをインストールします。  
右のQRコードからアクセスできます。

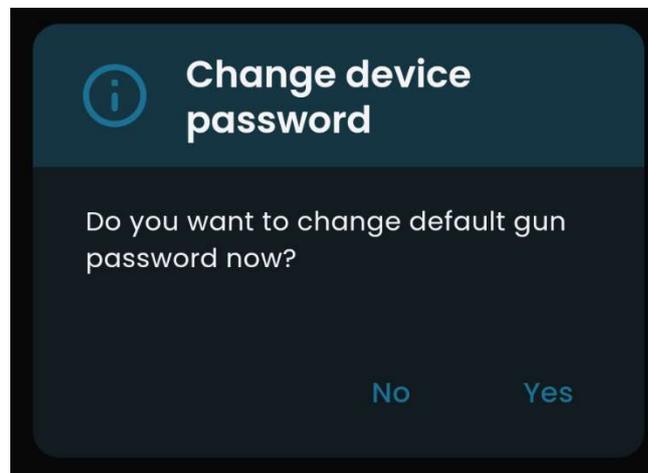
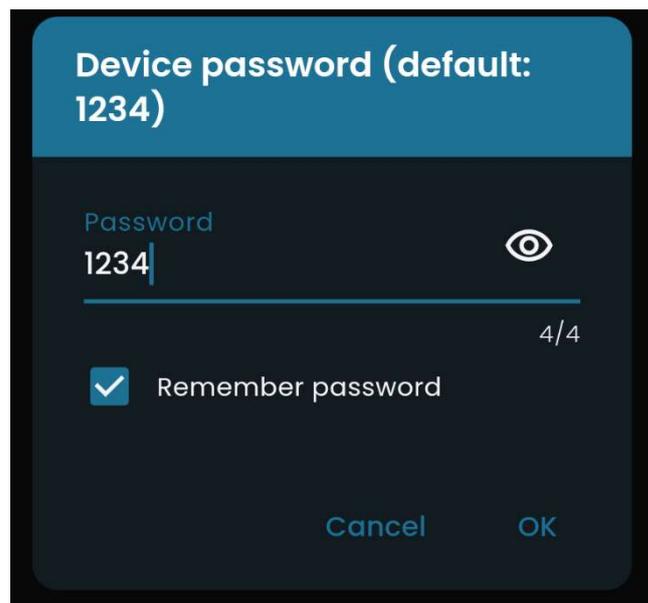
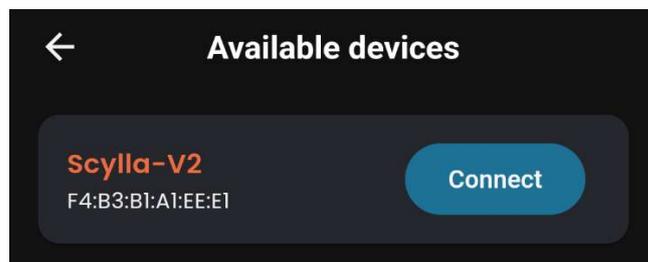


バッテリーをScylla - V2に接続し、スマートフォンとペアリングします。

初期パスワード「1234」を入力します。

Remember passwordにチェックを入れるとパスワードを保存できます。

パスワードは4桁の任意の数字に変更できます。



新しいパスワードを入力し、Saveボタンを押します。

パスワードは誰にも教えな  
いでください！

Change device password

Old password  
..... 4/4

New password 0/4

Confirm new passw... 0/4

Cancel Save

### ファクトリー&パスワードリセット

もしパスワードを忘れてしまった場合、バッテリーを接続しブザーが鳴ったらバッテリーを外す、を3回繰り返すとモーターから音が鳴ってファクトリーリセットが行われ、Scylla - V2は出荷状態に戻りパスワードも1234にリセットされます。

## セレクターセンサー校正

セレクターセンサー校正は銃のセレクターをセーフ、セミ、オートに設定するために行います。最終的に全ての項目が緑になっている必要があります。

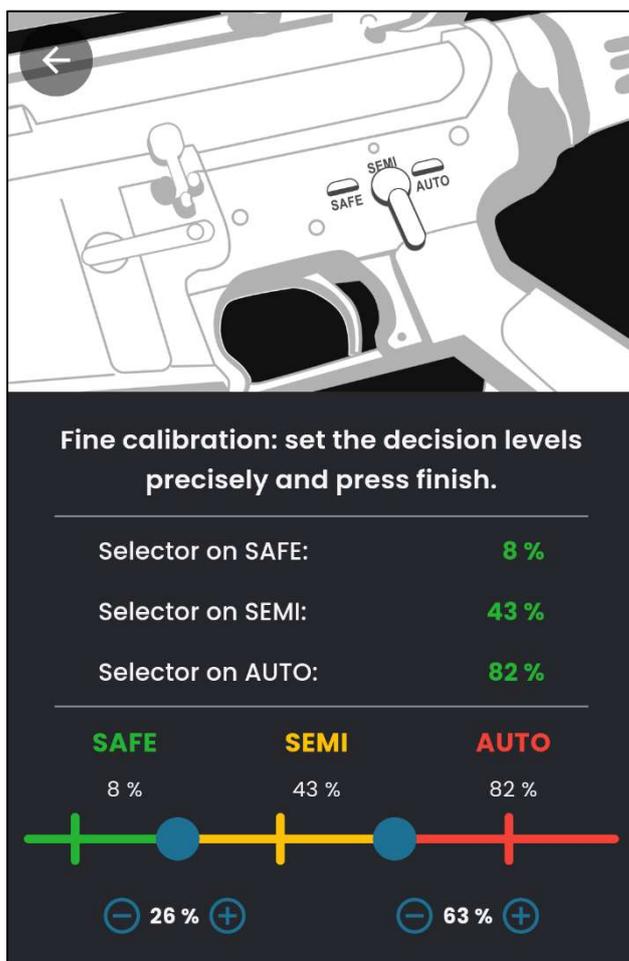
校正手順：

セレクターをセーフの位置にし、値が6~30%に収まっていることを確認し、continueを押します。

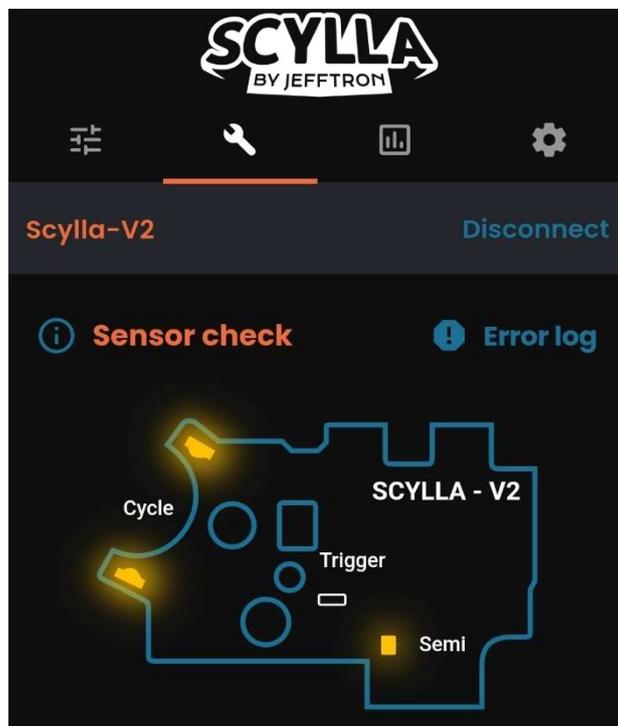
セレクターをセミの位置にし、値が40~70%に収まっていることを確認し、continueを押します。

セレクターをオートの位置にし、値が80~90%に収まっていることを確認し、finishを押します。

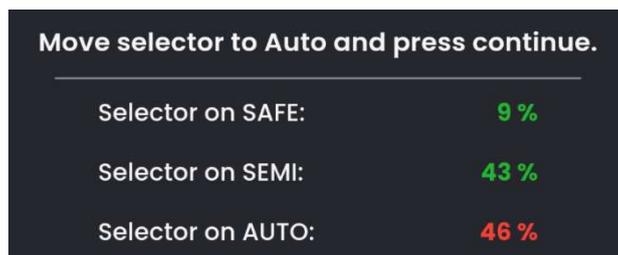
青丸をスライドさせるか、-と+を押して値を変えることで切り替わり位置の微調整が可能です。



Sensor checkで正しくセレクト  
ターが切り替わっているか確認し  
ます。



もし、いずれかの値が赤になっ  
ている場合、他の値に近すぎるため  
正しく設定が行われません。



これは校正中にセレクトターを動かさなかつたり、セレクトターの位置が誤っている、セレクトタープレートまたはセンサーに汚れがついている、セレクトタープレートステッカーが正しい位置に貼られていない場合に発生します。

## サイクル校正

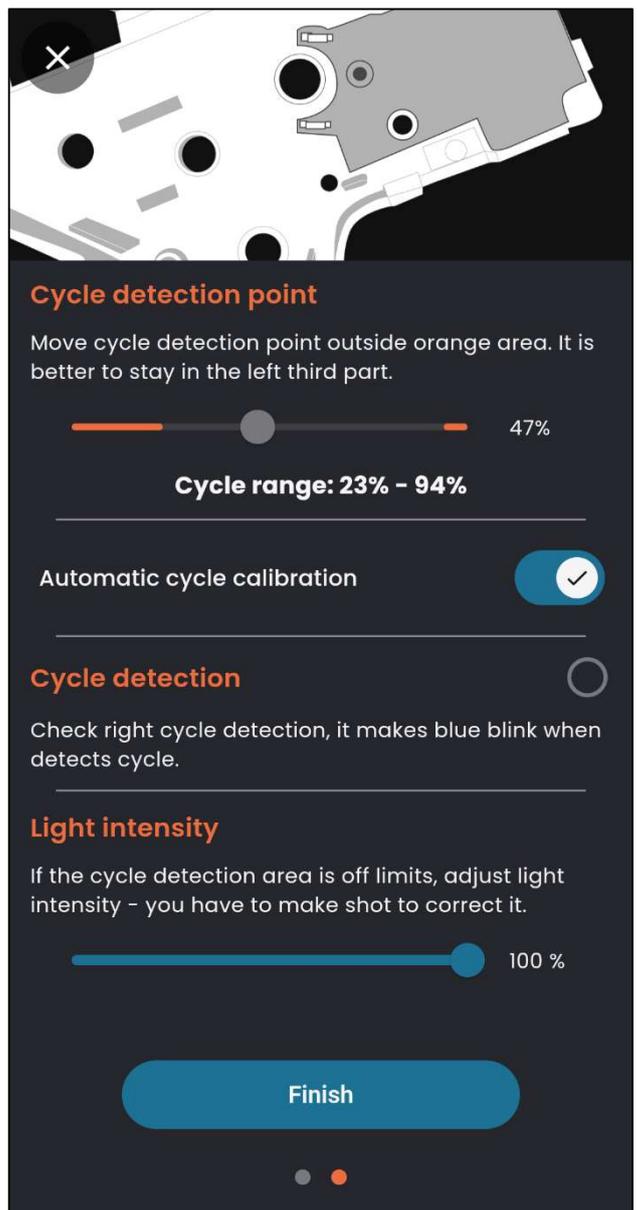
これは銃のサイクル検出を設定するためのものです。ギアを回転させ、**発射動作を行う必要があるため、絶対にBB弾が装填されていないことを確認し、安全な方向を向けて作業を行ってください。**

校正手順：

校正ページを選択し、発射動作を行うと右のページが表示されます。

Cycle detection pointで検出のタイミングを設定します。値が高いほど検出タイミングが早くなります。

Cycle rangeはセクターギアが回転した時の読み取り値になります。理想は10~90%ですが、範囲差が20%あれば動作可能です。



Automatic cycle calibrationにチェックを入れると、エラー103が発生した時に自動的に値を設定してくれます。

Cycle detectionはセクターギアのサイクルを正常に検知した時に点灯します。

Light intensityはセンサー光の強さです。光量が強すぎるとCycle rangeが狭くなります。値を変えた場合、1回射撃すると設定が反映されます。

Cycle rangeの値が大きすぎる場合、センサーを緑矢印の方向にずらしてセクターギアに近づけます。



値が小さすぎる場合、逆方向にずらしてセンサーをセクターギアから遠ざけるか、センサーを掃除してください。

いずれも赤丸のねじを緩め、位置を調整したら再度締めます。

## トリガー感度校正

どのくらいトリガーを引けば発射されるかを設定します。**発射動作を行う必要があるため、絶対にBB弾が装填されていないことを確認し、安全な方向を向けて作業を行ってください。**

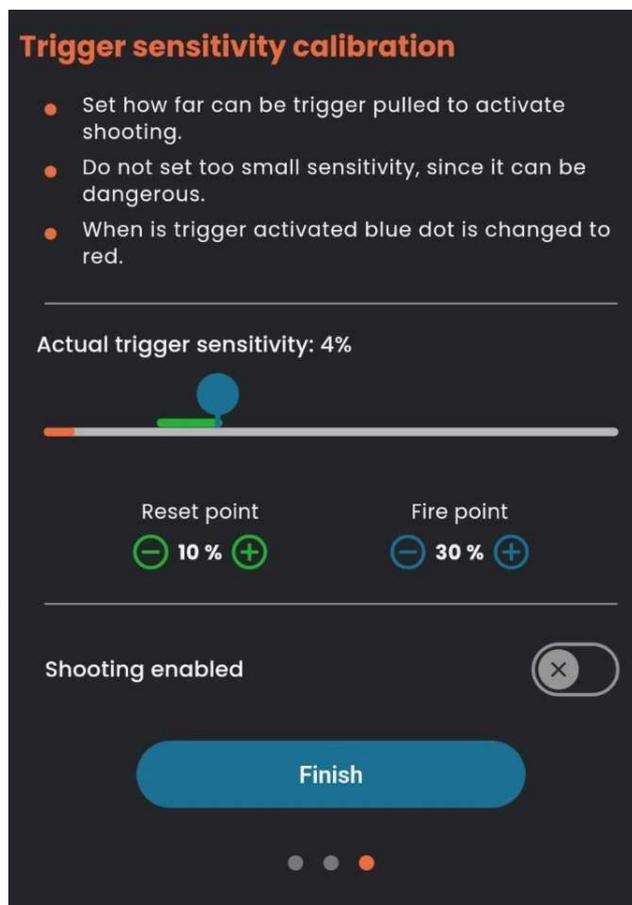


トリガーを引く距離を設定します。

青丸をスライドさせるか、Fire pointの値を変えると発射位置を変更できます。右に行くほど深くトリガーを引く必要があります。

Reset pointはトリガーを戻す距離です。この位置までトリガーを戻さないと次弾を発射できません。

発射されると青丸が赤く光り、Shooting enabledを有効にすると実際に発射動作が行われます。



危険なため、あまり感度を高くし過ぎないでください。

## 最初の動作チェック

1. バッテリーを接続し、1秒後にモーターが短く振動すれば電源投入後のセルフチェックが正常に完了となります。
2. セレクターをセーフにすると、トリガーを引いても発射されません。
3. セレクターをセミにしてトリガーを引くと、1発だけ発射されます。
4. セレクターをオートにして一瞬だけトリガーを引くと、3発だけ発射される3バーストになります。トリガーを引き続けると引いている間だけ発射されるフルオートになります。
5. 上記の通りに動作すれば、Scylla - V2の組み込みは完了となります。動作しない場合はエラーログとトラブルシューティングを参照してください。
6. Scylla - V2をアプリに接続して、ファームウェアを最新のものにアップデートします。アプリとファームウェアは常に最新のものを使用してください。

### 注意：

使用しないときはバッテリーを外してください。Scylla - V2は極小ではありますが、常に待機電力を消費しているので、バッテリーを繋ぎっぱなしにして長期間放置すると過放電の原因となります。

## アプリケーション

### 発射モード(Fire mode)

セクター : Safe-semi-auto

Safe : トリガーを引いても発射されません。

Semi : トリガーを引くと1発だけ発射します。

Binary trigger : トリガーを引くと1発発射し、そのまま3秒以内にトリガーを戻すと戻した時にも1発発射します。

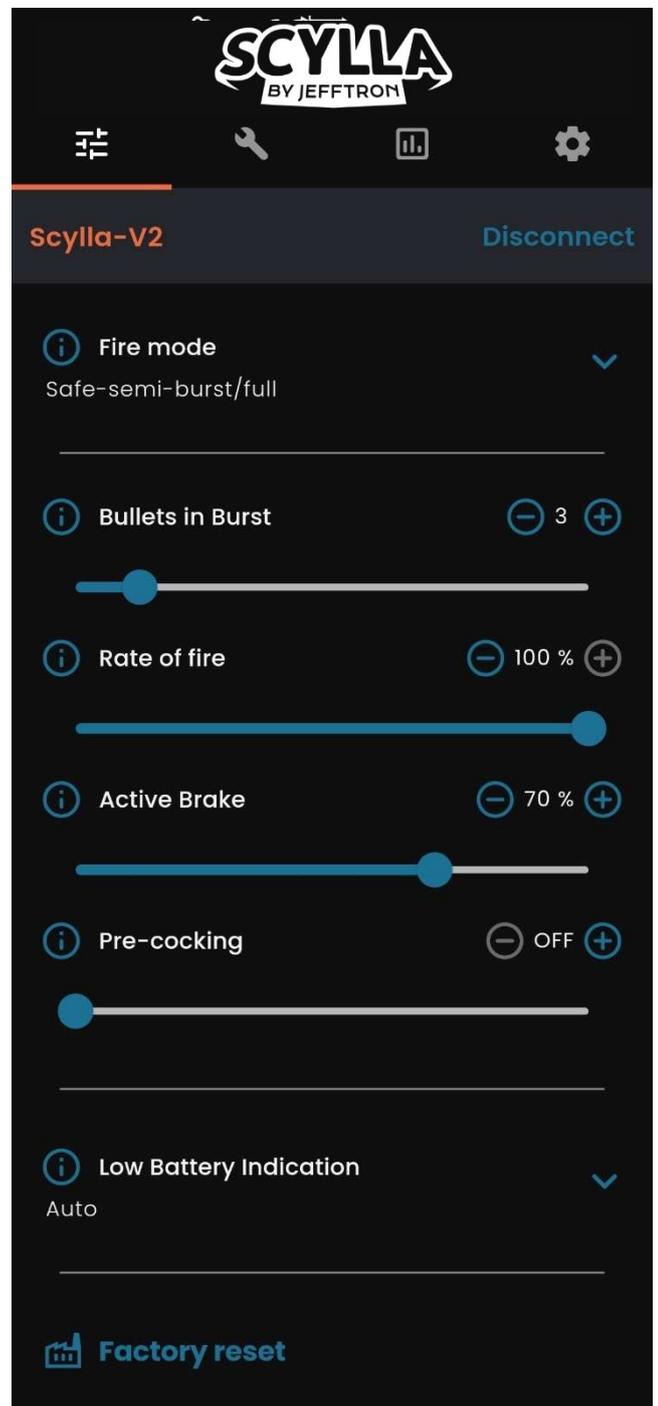
Burst : トリガーを引くとバーストで設定した数だけ発射します。

Burst/Full : 一瞬だけトリガーを引くとバーストとなり、引き続けるとフルオートになります。

Full : トリガーを引き続けている間、連続発射されます。

### Burst

ここで設定した弾数がBurstモードで発射される弾数になります。バースト中にトリガーを離しても、設定した弾数を撃ち切るまで止まりません。



## Rate of fire

この機能を有効にすると連射速度を落とせます。

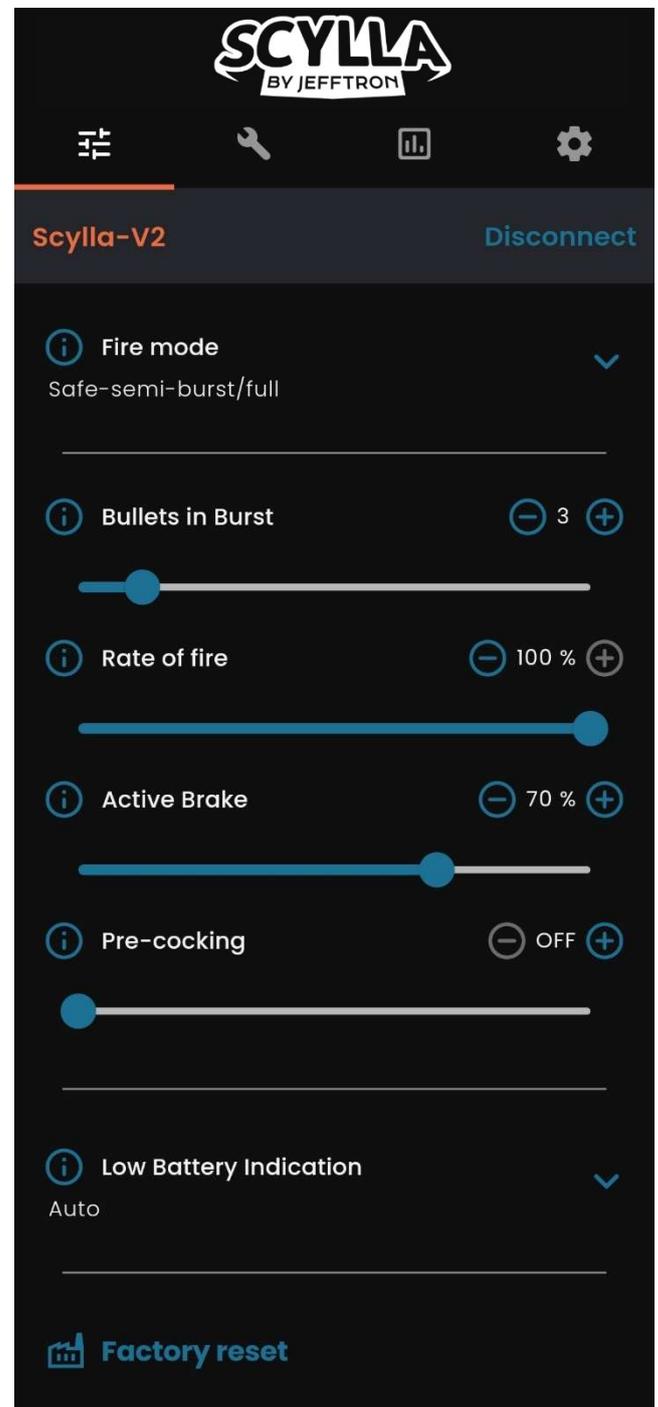
セミのレスポンスは欲しいけれども連射速度はリアルサイクルが良い、と言う場合にとっても便利な機能です。

## Active Brake

この機能を有効にするとショートブレーキによって発射後にモーターを急停止させることができます。

ピストンを最前進位置で停止させたり、連射速度が高い時にオーバーランさせないで停止させたい場合に有効な機能です。モーターのトルクが大きいほどブレーキの効きが強くなります。

注意：ブレーキ設定を強くするほどモーターが発熱し寿命が短くなります。



## Pre-cocking

この機能を有効にすると、セミで発射した後にピストンを後退位置で停止させ、トリガーを引いてからピストンをリリースするまでの時間を大幅に短縮できます。推奨値は40%前後になります。

セミで発射後、トリガーを3秒以上引き続けるとピストンリリースが行われ、スプリングが伸び切った最前進位置で保管できます。

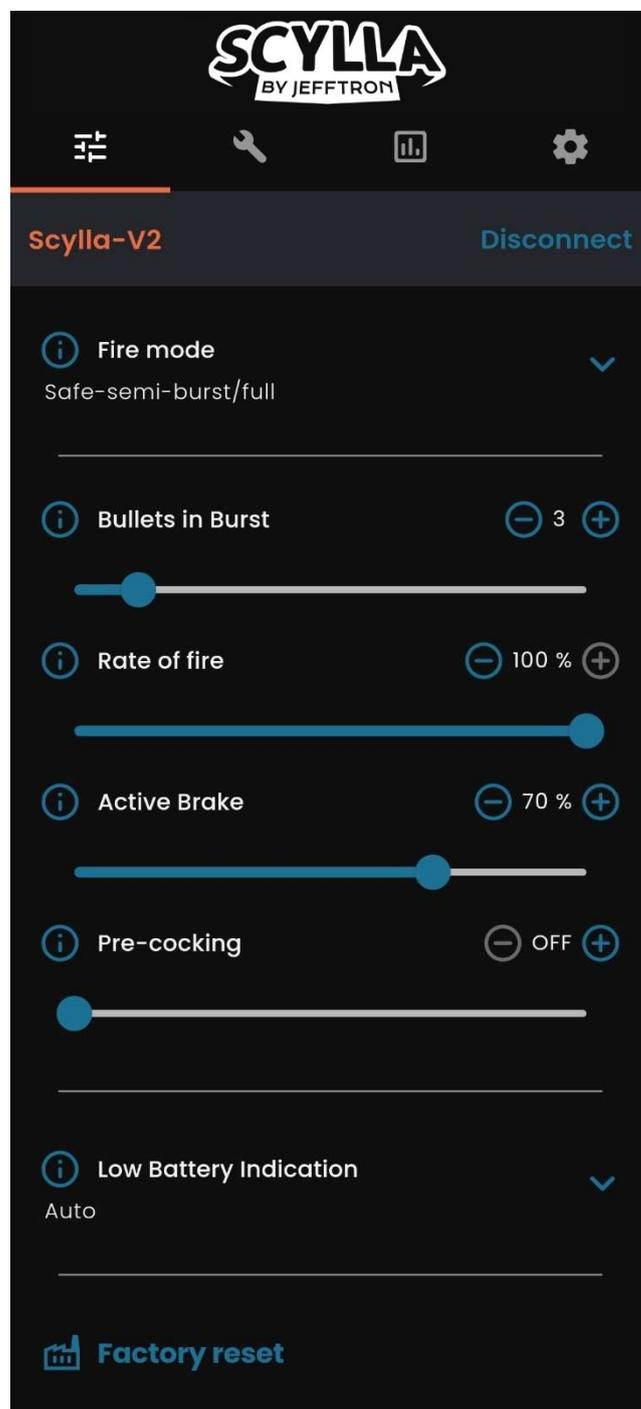
### 警告：

この機能は負荷が大きくなるため、ギアボックス各部の摩耗を早め寿命を低下させます。

## Low Battery Indication

この機能はLi-Po2セルと3セルバッテリーでのみ有効です。Autoを選択するとセル数を自動で判別します。バッテリーの電圧低下を検知すると、発射するたびに警告ブザーが鳴ります。警告ブザーが鳴ったらバッテリーを交換してください。

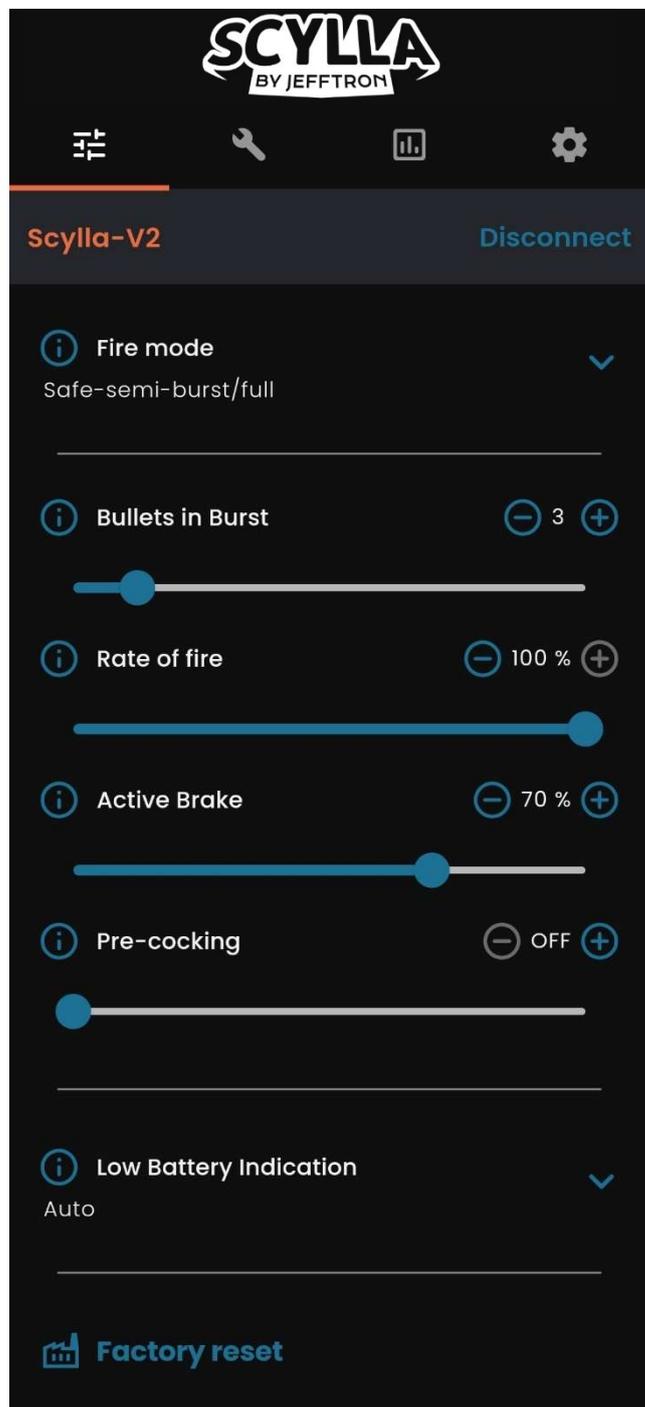
警告：使用しないときはバッテリーを外してください。Scylla - V2は極小ではありますが、常に待機電力を消費しているため、バッテリーを繋ぎっぱなしにして長期間放置すると過放電の原因となります。



## FACTORY RESET

この機能を選択すると、パスワードを変更せずに設定値を工場出荷状態に戻します。

もしパスワードを忘れてしまった場合は、バッテリーを接続しブザーが鳴ったらバッテリーを外す、を3回繰り返すとモーターから音が鳴ってファクトリーリセットが行われ、Scylla - V2は出荷状態に戻りパスワードも1234にリセットされます。



## Sensor check

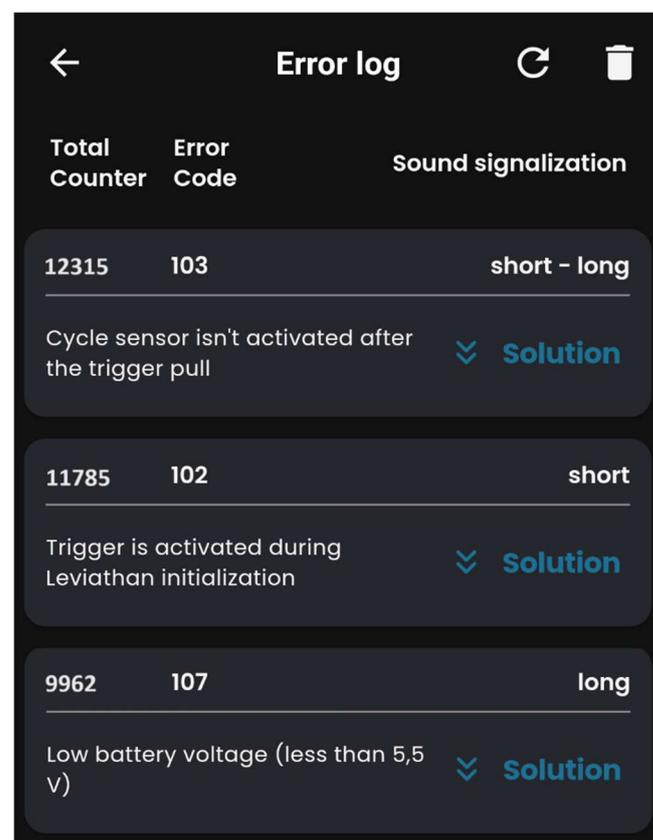
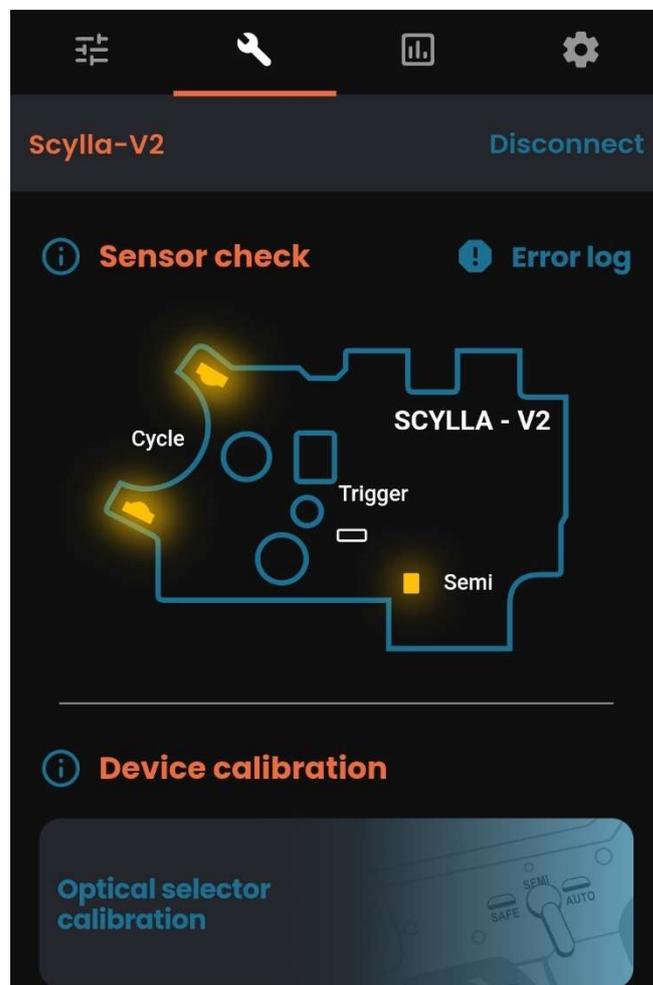
センサーの反応を示しています。黒がOFF、黄色がONです。セレクターがセーフに設定されている場合、OFFとしてみなされ黒で表示されます。正しく動作しない場合は各校正のページを参照し再校正してください。

## Device calibration

機器の校正です。各校正ページを参照してください。

## Error log

発生した時の発射弾数と共にエラーログを一覧で表示します。Solutionを押下すると考えられる解決策を表示します。



## Statistics

### Rate of fire:

1秒間の連射速度です。

### Shot counter:

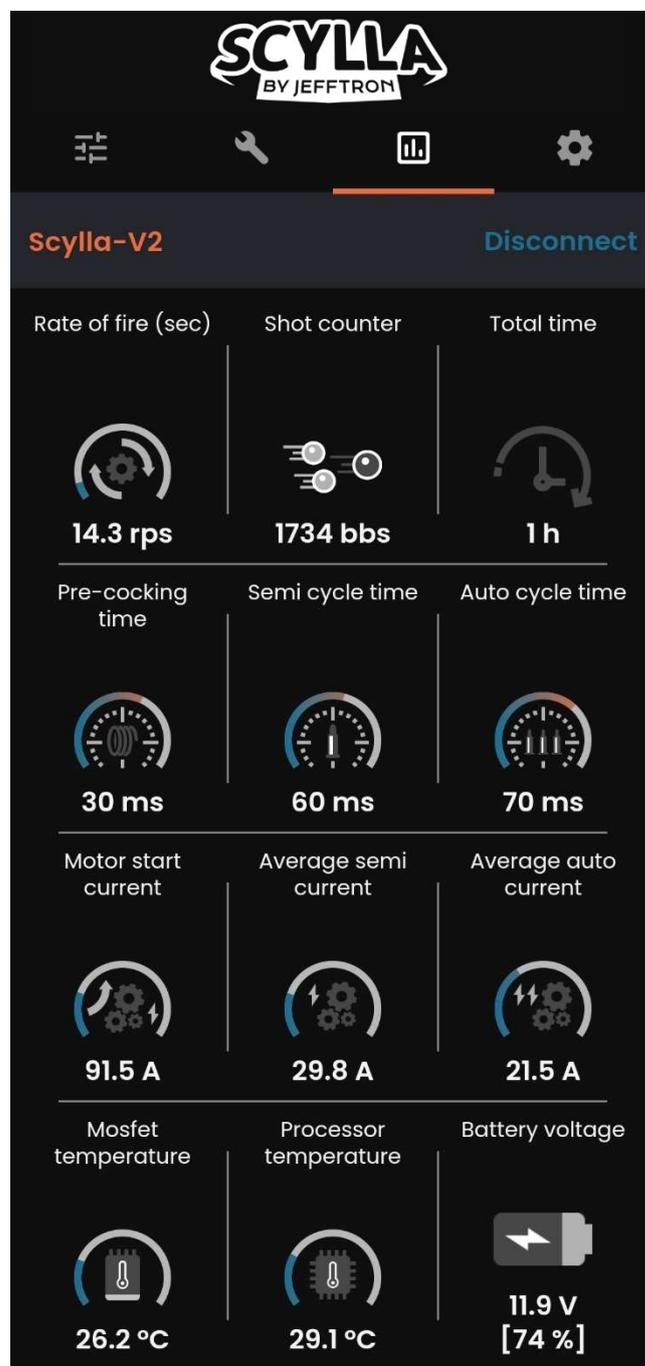
この機器が製造されてからの総発射弾数です。

### Total time:

この機器が製造されてからバッテリーが接続されていた総時間です。

### Pre-cocking time:

カットオフ検知後にピストンを圧縮位置に移動させる時間です。



### Semi cycle time:

モーターが回り始めてからピストンがリリースされるまでの時間です。

### Auto cycle time:

連射速度が最大値になった時の発射と発射の間隔です。

**Motor start current:**  
モーターが回り始めてから流れる電流の最大値(突入電流)です。

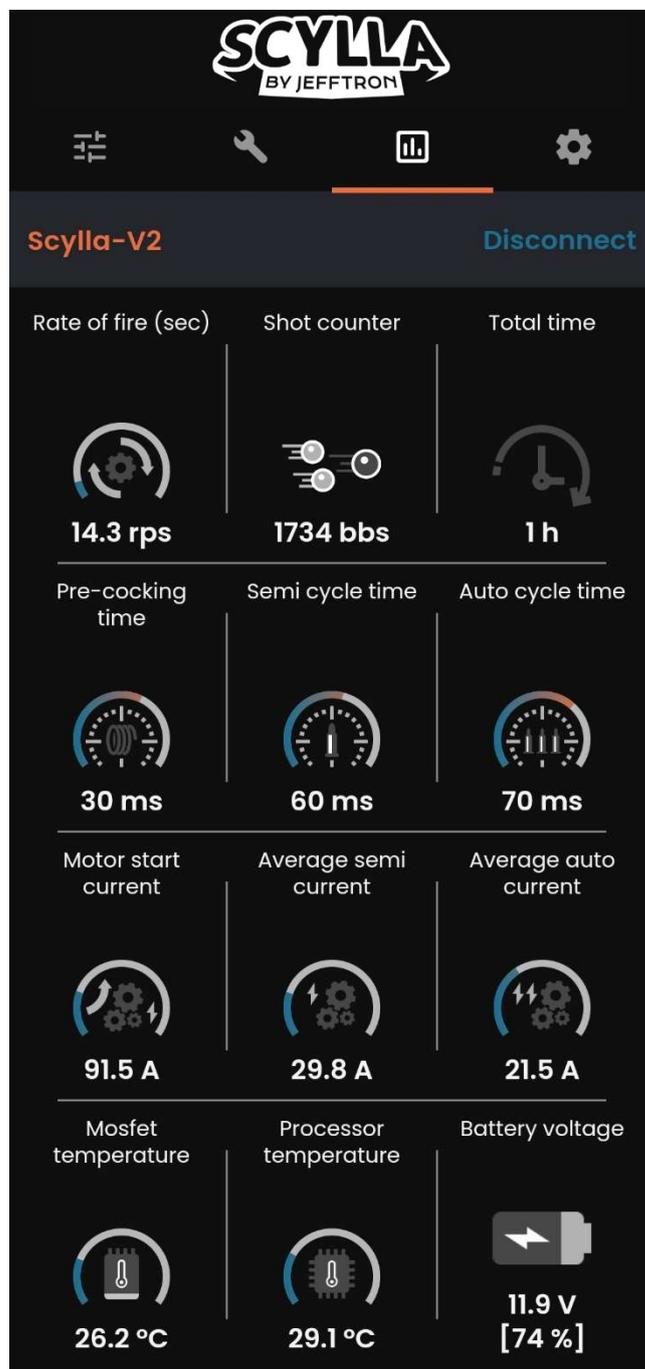
**Average semi current:**  
セミ1発で流れる電流の平均値です。

**Average auto current:**  
連射時に流れる電流の平均値です。

**Mosfet temperature:**  
Mosfetの今現在の温度です。75℃に達すると安全装置が働きます。

**Processor temperature:**  
プロセッサの今現在の温度です。75℃で安全装置が働きます。

**Battery voltage:**  
今現在のバッテリーの電圧を表示しています。Low battery indicationを設定していると、バッテリー容量をパーセンテージで表示します。



## Settings

### Language:

アプリケーションのテキストを異なる言語に翻訳します。

### Theme:

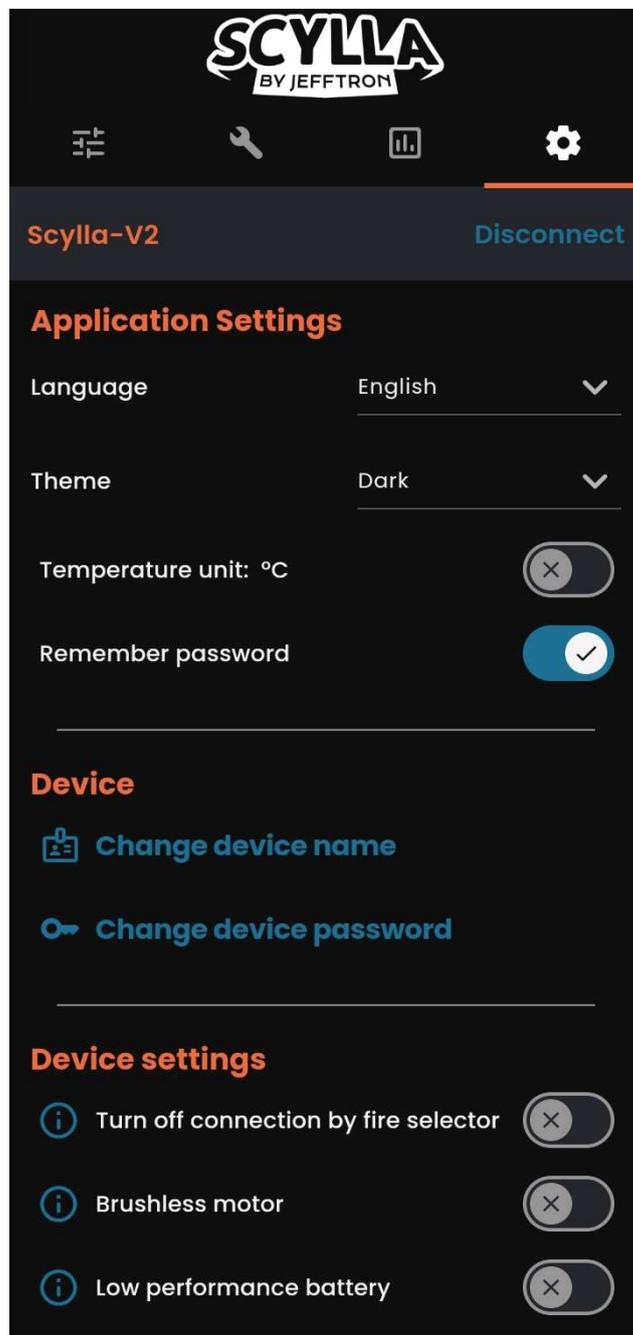
アプリケーションの背景色を白か黒に設定できます。

### Temperature:

温度の単位を°Cと°Fに変更できます。

### Remember password:

設定するとパスワードの入力を省略してアプリケーションにログインします。



### Change device name:

デバイスリストに表示する名前を変更できます(英数字のみ、最大16文字)。変更後、一度アプリケーションから切断されます。

### Change device password:

パスワードを変更できます。

Turn off connection by fire selector:

この機能をONにすると、セレクターをセーフからオート、オートからセーフに素早く切り替えることでモーターから音が鳴り、アプリケーションへの接続を可能/不可能状態に切り替えられます。

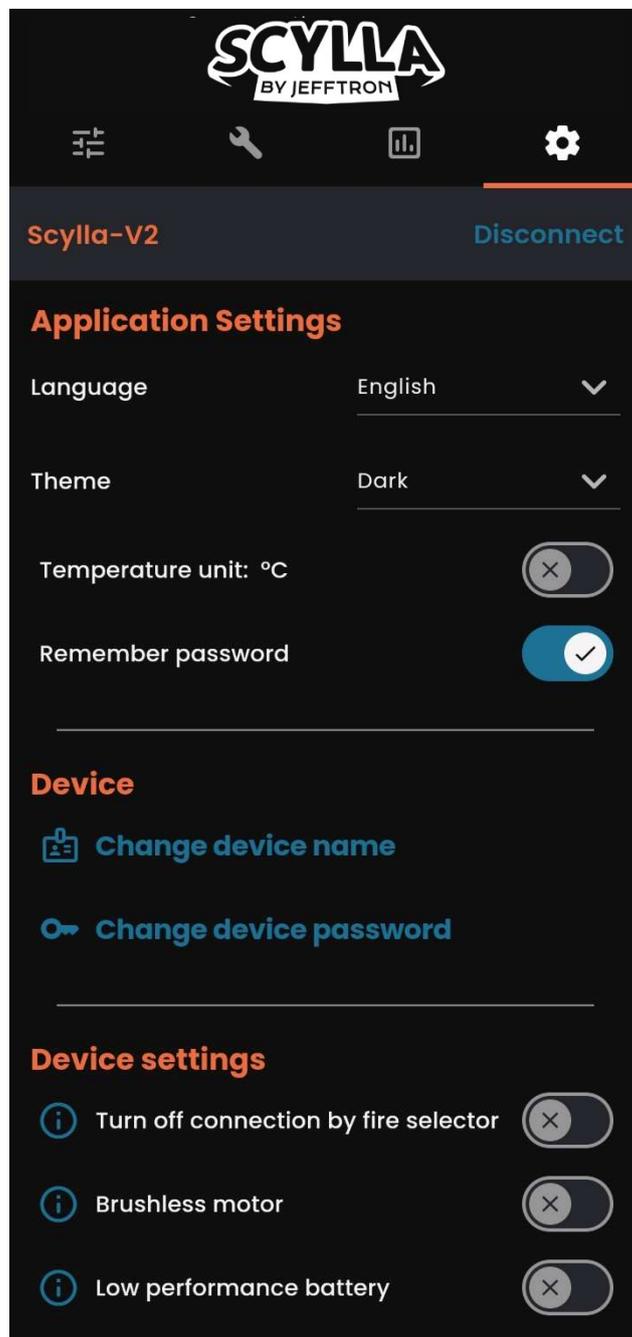
第三者による誤接続を防ぐのに有効な機能です。

Brushless motor:

ブラシレスモーターを使用する際、この機能を必ず有効にしてください。アクティブブレーキが常に無効になります。Rate of fireとデコッキング機能は使用できます。

Low performance battery:

バッテリーの性能が銃の要求スペックに対し低すぎる場合、モーター始動時の突入電流を低く抑える機能です。代償としてセミオートのレスポンスが著しく低下します。



## Settings

### Information:

アプリケーションとファームウェアのバージョンに関する情報です。ブートローダーとハードウェアのバージョンは固定です。First device launchはScylla - V2に初めてアプリケーションを接続した日です。

### Select a firmware version:

最新のファームウェアがうまく動作しない場合、いつでも過去のバージョンに戻せます。

### Check for updates:

もしアプリケーションの接続が失われた場合、この機能でファームウェアのバージョンを確認してください。

### Device update:

バグを修正し、新機能を追加します。

所要時間は約1分で、終了後にメッセージが表示されモーターブザーが鳴ります。

### Installation manual:

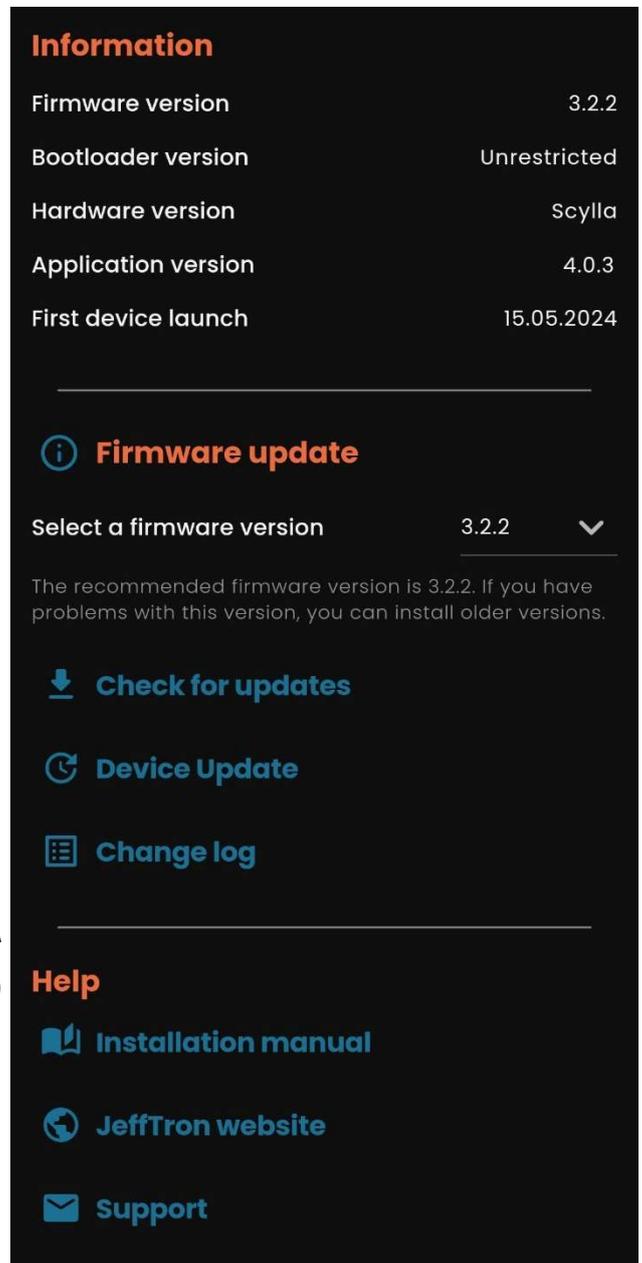
英語版の取扱説明書をPDFで閲覧できます。

### JeffTron website:

Jefftron本国のウェブショップにリンクします。

### Support:

Jefftronにサポートのe-mailを送れます。



## スタートアップ診断

バッテリーを接続するとScylla - V2は1秒間、電源投入時のスタートアップ診断を行います。状態に応じて以下の反応を返します。  
( )内はエラーコードです。

**短い振動1回：**

システムは正常です。0.5秒間モーターが振動します。

**短いビーブ音1回：**

バッテリー接続中にトリガーが引かれました(102)

**短いビーブ音2回：** Mosfetに高電流が流れています(106)

**短いビーブ音3回：** Mosfetが高温です(104)

**長いビーブ音1回：** バッテリー電圧が5.5Vを下回りました(107)

**長いビーブ音2回：** バッテリー電圧が13.0V以上です(105)

**長いビーブ音3回：** プロセッサが高温です(108)

**短い-長い-短いビーブ音：** モーターが接続されていません(109)

**長い-短い-長いビーブ音：**

アプリケーションが機能していません(200)

## 発射後コード

発射中に問題が生じた場合、ビーブ音が鳴りエラーログに記録されます。

**短い-長いビーブ音：**

トリガーを引いた後、セクターギアの回転を検知できませんでした  
(103)

**短いビーブ音2回：** Mosfetに高電流が流れています(106)

**短いビーブ音3回：** Mosfetが高温です(104)

**長いビーブ音3回：** プロセッサが高温です(108)

**長い振動1回：** バッテリー電圧が低下しています。バッテリーを新しい物に交換してください。

**長い振動が発生し発射できなくなる：** バッテリー電圧が限界まで低下しています。直ちにバッテリーを新しい物に交換してください。

**発射後、一定時間経過後に長い振動1回：** Delay between shotを有効にすると、発射後に一定時間が経過しないと次弾が撃てなくなります。次弾が撃てるようになると振動で教えてくれます。この振動は設定でON/OFFできます。また、ScyllaにはDelay between shotの機能はありません。

**徐々に高くなるメロディ：** Turn off connection by fire selector機能がOFFになった。

**徐々に低くなるメロディ：** Turn off connection by fire selector機能がONになった。

## トラブルシューティング

- ・バッテリーを接続しても反応しません。

**解決策：**バッテリーが充電されていて、正しく接続されているか確認します。その後、モーターが正しく接続されているか、モーターが壊れていないか確認します。ヒューズをつけている場合は切れていないか確認します。

- ・トリガーを引いても発射されません(スタートアップ診断は正常)

**解決策：**トリガースイッチやセンサーが正常に機能しているか確認します。

- ・セレクターをセミにしても、セーフやオートになります。

**解決策：**正しい位置にセレクタープレートステッカーが装着されているか、センサーに汚れがついていないか確認します。アプリケーションのセンサーチェックで正しく反応しているか確認し、異常がある場合は校正を行います。

- ・セミアウトが2バーストになります(ピストンオーバーラン)

**解決策：**連射速度が速すぎることでオーバーランしています。Active brakeを強くする、Pre-cockingを使っている場合は値を低くする、連射速度を下げる、電圧の低いバッテリーを使う、ギア比を変える、回転速度が低いハイトルクモーターを使うなどの方法が挙げられます。

・セクタープレートが動いたとエラーが表示されます。

**解決策**：射撃中に誤って切り替えてしまったり、射撃振動でセクタープレートが動いた時に表示されます。正しい位置にセクタープレートステッカーが装着されているか確認し、校正を行ってください。

・バッテリー接続中にトリガーが引かれました(102)とエラーが表示されます。

**解決策**：トリガーを確実に離れた状態で再度バッテリーを接続します。トリガースイッチやセンサーが正常に機能しているか確認します。

・常にバーストで発射され、エラー103が表示されます。

**解決策**：セクターギアのサイクルセンサーが回転を検知できていません。センサーが汚れていないか確認します。サイクル校正で正常に回転を検知できているか確認し校正します。

- ・ Mosfetが高温です(104)

**解決策**：まず、温度が下がるまで時間を置きます。同じエラーが繰り返し起きる場合、過剰な電流が流れています。ギアボックス内部に負荷となる物が無いか確認します。

- ・ バッテリー電圧が13.0V以上です(105)

**解決策**：13.0V以下のバッテリーに交換してください。

- ・ Mosfetに高電流が流れています(106)

**解決策**：モーターやギアにダメージがあり動きを阻害されていないか、配線やコネクタにダメージがありショートしていないか確認します。アンバランスなカスタムの可能性も考えられます。

・バッテリー電圧が5.5Vを下回りました(107)

**解決先**：5.5V以上の電圧があるバッテリーに交換してください。もしくはLow performance battery機能を使用してください。

・プロセッサが高温です(108)

**解決策**：Scylla - V2本体や配線がギアボックスやダメージを受けたパーツを介してショートしていないか確認してください。

・モーターが接続されていません(109)

**解決策**：モーターとモーター端子を確認してください。これらにダメージがあった場合、表示されることがあります。

・アプリケーションが機能していません(200)

**解決策**：Scylla - V2のプログラムにエラーが発生しています。最新版のファームウェアにアップデートしてください。

・銃が突然発射できなくなりました。

**解決策**：何かしらの安全機構が働いている可能性があります。エラーログを確認してください。バッテリーの容量、モーターとの接続とモーター自身が正常に動くか確認してください。

・ Scylla - V2がデバイスリストに表示されなくなりました。

**解決策：**アプリケーションのリフレッシュボタンを押してください。バッテリーがしっかり充電され、Scylla - V2に接続されているか確認してください。スマートフォンの接続設定を確認してください。アプリケーションを再起動してください。

・ Scylla - V2が思った通り動かなくなりました。

**解決策：**一度ファクトリーリセットして初期状態に戻すことをお勧めします。

・ 銃が異常な挙動をするようになりました/動かなくなりました。

**解決策：**トリガーから指を離し、バッテリーを抜いて安全な状態にして問題点を探ってください。取り返しがつかない状態になる前にサポートに連絡してください。

連絡先(e-mail)

Jefftron : support@jefftron.cz (英語のみ)

G.A.W. : shop@gaw-airsoft.shop-pro.jp

この製品はお買い上げ日より2年間のメーカー保証がついています。初期不良、製品側が原因となる使用中の故障に対し無償で修理交換対応を行います(往復送料はご負担ください)

**以下の行為は保証の対象外となり修理は有償見積もりとなります。**

・ 水没 ・ 事故による破損 ・ 取扱、組み込みミス ・ バッテリー逆接 ・ 配線ダメージ ・ ユーザーによる改造 ・ 物理的または電氣的なストレスによる破損

## MANUFACTURER

Ing. Filip Němec

Zahradní 599, 538 03 Heřmanův Městec

ID: 87936062, TAX ID: CZ8503013475

Made in Czech Republic

[www.JeffTron.net](http://www.JeffTron.net)



### Warranty does not cover:

water immersion, defects or damage from accident, misuse, opposite battery polarity, abuse, damaged wires, wrong installation, bad handling, any modification by user, unusual physical, electrical or electromechanical stress.

**Exclusion of liability:** Manufacturer Ing. Filip Němec is not liable for any damages, injuries or accidents of any kind resulting from the use of this product in the airsoft gun.



For technical support or  
reclamation use email:

[support@jefftron.cz](mailto:support@jefftron.cz)

MANUAL  
VERSION

9.2024